

Why なぜ

逃げ遅れを防ぐために

住宅火災が原因で亡くなる人の6割以上が「逃げ遅れ」によるものです。日本に先駆けて義務化されたアメリカでは、住宅用火災警報器の普及とともに住宅火災による死者数が激減しました。

日本でも消防法が改正され、平成18年6月1日から新築住宅への設置が義務化されました。既存住宅については、5年間の猶予期間の中で各自治体が条例で定めることになりましたが、石川県は2年後の平成20年6月1日からの義務化で統一し、奥能登広域圏事務組合の火災予防条例によって定められました。

自分や家族を守るために

住宅火災は発見が早ければ早いほど生命も財産も被害は少なくなります。条例で定められているからではなく、自分や家族の大切な命を守るために住宅用火災警報器を設置してほしいと思います。



坊谷文治能登消防署長

When いつまでに

5月31日までに設置を

条例では6月1日からの設置を義務化、つまり5月31日までに設置するよう求めています。消防署ではこの2年間、町内会や婦人会、老人会などを対象に100回以上にわたって説明会を開催してきました。5月31日まではなく「1日でも早く設置してほしい」と訴えています。

What 何を

煙式の警報器を

「煙のないところに火はない」といわれるくらいに、火災では火よりもはるかに早く煙が充満します。今回義務化された警報器は煙を感知する煙式の住宅用火災警報器です。場所や家の構造にもよりますが、階段に設置した場合には火災発生から数秒から10数秒で警報器が鳴ると思

います。火が大きくならないうちであれば、避難や通報、初期消火ができることになり、家族の安全・安心な生活につながることは確実です。

昨年12月には、金沢市で住宅用火災警報器の音を聞きつけた隣人の通報で被害を防いだという事例もありました。煙式の住宅用火災警報器が、火災発見にとっても効果的であるということが分かります。

煙式に対して熱に反応する熱式の警報器は主に台所向けで、石川県での設置は任意となっています。

Where どこに

寝室と階段に

住宅用火災警報器を設置する場所は寝室です。2階以上に寝室がある場合には、階段にも取り付ける必要があります。もし睡眠中に火災が発生した場合でも逃げ遅れることがないようにということなのです。天井に設置する場合は壁から60センチ以上離れた位置に、壁に設置する場合は天井から15センチ以上50センチ以内の位置に設置してください。

How much いくら

相場は5千円前後 訪問販売には注意を

気店やホームセンターなどで購入して、ドライバー一本で簡単に取り付けることができます。消防署が呼びかけて販売店・取扱店を対象に実施した設置説明会には町内の40店が参加しました。自分で設置することが難しい場合は、町内の販売店・取扱店へ尋ねてみてください。

住宅用火災警報器の値段は5千円前後が相場です。機能が豊富なものでも1万数千円程度ですので、訪問販売などで高額な商品を提示された場合は悪質な販売の可能性がありますので十分注意してください。

能登町内でも実際に悪質販売の被害が出ています。おかしいと感じたらきっぱりと断るか、警察や消防にすぐに連絡してください。

また、ご自分で購入する場合には「鑑定マーク(NSマーク)」がついているものを目安にしてください。

能登消防署では、住宅用火災警報器に関する相談を24時間受け付けています。いつでもお気軽に相談してください。また町内会や団体などで住宅用火災警報器について詳しく知りたい場合は、いつでもどこでも職員が説明に伺います。

「もし住宅用火災警報器が付いていれば…」ということは決して起きてほしくありません。皆さんが安心して生活するために、1日でも早く住宅用火災警報器をご自宅に設置してください。

Who 誰が

取り付けは簡単

住宅用火災警報器の取り付けには資格は必要ありません。電



壁掛け用の住宅用火災警報器(煙式) 実物大

かけがえのない命を 火災で失ってほしくない。

だから 住宅用火災警報器

6月1日から、すべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられます。どこに設置するのか。なぜ設置が必要なのか。坊谷文治能登消防署長に伺いました。

能登消防署 ☎ 62-0492

能登町立高倉公民館

字 12-13 ☎ 62-0625
■地区世帯数 520 ■人口 1,493



こうみんかんつうしん
公民館通信
第9号

高倉公民館編

羽根、小浦、真脇、姫、羽生の5つを合わせた地域を高倉地区と呼んでいます。今回は、活気ある活動が進められている高倉公民館を紹介します。

子どもたちの声が響く高倉公民館

地元小学生の通学路途中に位置している高倉公民館。子どもたちの集合場所としてもよく利用され、毎日にぎやかな声が館内に響いています。この公民館には1階に図書室と調理室、2階には大きなホールや和室が完備され、各地域から推薦された協力員の皆さんや、婦人会、老人会などのサポートを得ながら、年間を通じてさまざまな行事が行われています。

毎年6月に開催される「高倉公民館作品展」は今年で30回目を数えます。この作品展は絵画や書道、生花、手芸品などが館内いっぱいに飾られ、毎年たくさんの観客が訪れます。また、グラウンドゴルフ大会やダーツ大会など、ニュースポーツを通じた健康作りや仲間作りの場も提供しています。



各教室で制作された作品や一般からの応募作品、高倉保育所や真脇小学校の子どもたちの芸術作品も展示されます

高倉地区では数年前から高倉保育所、真脇小学校と合同で社会体育大会が実施されています。小さな子どもからお年寄りまでが一緒にさまざまな競技を楽しみます。

●高倉公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
料理教室	毎月最終月10:00	親子料理教室	随時
生花教室	第2・4水14:00	親子俳句教室	随時
民舞教室	第1・3・4木 第2金19:30	ジャザサイズ	毎週火夜 真脇小学校
俳句教室	第2木19:00	軽歩「ツクア」	毎週水夜 真脇小学校
レィーストッチ	毎月1回19:30	祭りばやし教室	随時
茶道教室	随時		

地域をあげて盛大に開催される体育大会。町内対抗の綱引きなど、真脇小学校のグラウンドで大いに盛り上がります



公民館ではこれまで参加が少なかった世代の人たちにも楽しんでもらいたいとプログラムを工夫しています。また、高齢者向けの「悪質商法」に関する無料講座や、地域の伝統を守り伝える「祭りばやし教室」など、地元根差した行事も開かれています。対象者の的を絞って行事を開催する場合には、参加希望者が一番参加しやすい日程になるように企画しているそうです。

毎年恒例の新春カルタ・将棋大会では、百人一首やオセロなどで頭の体操をしながら参加した児童が親睦を深めます



気軽に集える憩いの場として

高倉公民館は地域の温かいボランティア精神に支えられ、住民に最も身近なカルチャースクールとして多くの人に利用されてきました。公民館では今後さらに学校や地域に密着し、地域間のコミュニティーの場としての活動も広げていきたいということです。少子高齢化の波を受け、各地で学校再編成などが進む中、公民館には住民の皆さんが気軽に集い、共に語り合える大切な空間としての役割も求められています。

能登町が誕生して3年。町内各地域の垣根を越え、有意義な世代間交流ができる窓口として、地区公民館がさらに活用されるといいですね。



叙勲
道下豊一さん
みちした とよいち (88歳・鶴川)

4月1日付けで発表された高齢者叙勲で道下豊一さんが旭日双光章を受章し、その伝達式が4月21日に能都庁舎で行われました。3月25日に満88歳の米寿を迎えた道下さん。昭和30年から平成18年までの12期47年の長きにわたり町議会議員に在籍し、地域発展に尽力しました。

この間、議会議長などを歴任し、2度の町村合併という歴史的な節目を経験したほか、小中学校の改革や国鉄能登線の開通など住民福祉の向上にも寄与しました。道下さんは今回の栄えある受章に対し「身に余る光栄です。今後も叙勲の名を汚さぬよう精進していきたい」と喜びを語りました。

消防協力者感謝状
川原範子さん

かわはら のりこ (50歳・布浦)



消防協力者表彰式が4月8日に能都庁舎で行われ、能登町社会福祉協議会の川原範子さんに感謝状が授与されました。川原さんは3月18日にホームヘルパーとして真脇地区の住宅に訪問介護に訪れた際、ガスレンジの消し忘れにより換気扇から出ていた煙を発見。的確な判断と行動で被害を最小限に抑えました。川原さんは「職場や地域の皆さんがわたしの呼びかけに迅速に対応してくださった結果です」と今回の受賞に対する感謝の言葉を寄せました。

消防庁長官表彰
田口正一さん

たぐち しょういち (60歳・波並)



3月18日、石川県庁で消防庁長官表彰伝達式が行われ、能登町消防団副団長の田口正一さんが永年勤続功労章を受賞しました。田口さんは、昭和52年に三波分団員として消防団に入団。分団長時代には消防操法の選手を兼ね、県大会3連覇、全国大会2大会連続出場と、現在の三波分団の基礎を築きました。賞状を受け取った田口さんは「これからも町民の生命、財産を守る消防団の先頭に立ち、頑張ります」と決意を新たにしていました。



目指すは夏のインターハイ制覇、 全国の舞台で必ずや雪辱を果たす。

シャフトを握り、自分の体に覚え込ませた足と目線の位置を定めて試技に挑む。バーベルを頭上まで差し挙げ、その重量で勝敗を決定するウエイトリフティング。3月29日に金沢市で開催された第23回全国高校ウエイトリフティング選抜大会男子77kg級に、石川県代表として出場した県立飯田高校3年の西中竜馬さんが、スナッチ、クリーン&ジャーク種目のトータル244kgの記録で見事準優勝に輝いた。

「試合に必要な精神力は剣道で身につけた」と話す西中さんは、小学3年生から中学校卒業まで剣道部に所属していた。高校入学と同時にウエイトリフティング部に入部し、既に全国大会で活躍していた上級生と毎日3時間の厳しい練習を重ねてきた。指導する西村剛監督は「筋肉の付き方がしっかりしていて初心者とは思えない重さを軽々挙げていた」と入部当時の印象を語る。西中さんは1年生から全日本ユース強化選手に

選ばれるなど、質の高い練習環境の中で着実に技術を磨いていった。その才能と存在は、2年生の夏にインターハイ9位、秋には北信越大会優勝という形で表れた。

驚異的な成長を遂げていた西中さんだったが、その強化練習中に腰や肩の故障に見舞われ、思うような練習ができない時期もあった。「自分に足りない部分の補強期間なんだと信じ、下半身のトレーニングなどに励んだ」という言葉どおり、この肉体改造が実を結び、練習復帰後には次々と自己ベストを更新し続けた。

昨年12月に開催された石川県予選、2月の北信越大会ともにダントツの成績で優勝を決めた西中さん。全国選抜への出場権を勝ち取り、全国ランキングでも2位に躍り出た。優勝を狙った選抜大会だったが、計6回の試技のうちたった一度のミスが勝敗を分ける結果となり、優勝まであと2kgという僅差で涙を飲んだ。

スナッチでは2度も自己記録を更新するなど快進撃を続けていた西中さんだったがジャークの2回目。競技を行う4ヶ四方のプラットフォームに足を踏み入れた瞬間「何か違和感がある」そう頭をよぎった。結局その試技は失敗に終わり、その時の状況を「プレッシャーを感じなさ過ぎたのが原因かもしれない」と振り返る。しかし、その直後に西中さんは心技体のバランスを立て直す。最後の6回目の試技では成功を意味するブザーを会場に鳴り響かせ、準優勝の栄冠を手にした。

全国でも激戦区といわれる男子77kg級制覇まであと一歩と迫った西中さん。「1kgという重さの中で記録がひしめき、順位が入れ替わる感覚が楽しい」とこの競技の醍醐味を語ってくれた。「次はインターハイに出場して雪辱を果たしたい」。西中竜馬が日本一王座につく日は近い。

全国高校ウエイトリフティング 選抜大会 準優勝

飯田高校3年

西中 竜馬さん (17歳・松波)

Nishinaka Ryuma



ウエイトリフティング競技：階級制のスポーツで主に男子8階級、女子7階級で行う。スナッチとクリーン&ジャークの2種目で各3回ずつ試技を行い、それぞれの最高記録の合計で順位を決定する。同記録の場合は体重の軽い者、または早く記録を出した者が上位となる。

うみとさかなの科学館・シロザケ稚魚放流
生き物に触れ優しい心を育む

3月29日、うみとさかなの科学館でシロザケ稚魚の放流が行われました。昨年11月に白山市の手取川を遡上するシロザケから卵を採取し、2月に県水産総合センター美川事業所から運ばれたという約300匹のシロザケの稚魚。1カ月半にわたり科学館で展示されていましたが、春になったため、今回約270匹を放流することにしました。

この日集まった親子連れは15人。子どもたちは、一人ずつバケツを手に取り、声を掛けながら稚魚を海に放流していました。稚魚は3年から4年後に手取川に戻るとのことです。



「帰っておいで」と声をかけながら放流する子どもたち



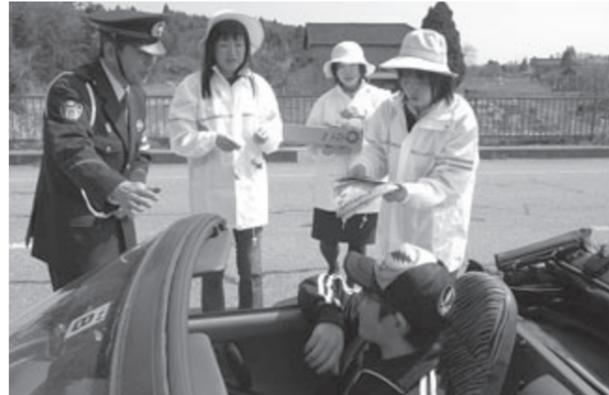
鬼の的に向かって矢を放つ氏子ら

鬼討ち祭り
鬼を退治して、豊作を祈願する

木住地区、木住神社の春祭り「鬼討ち祭り」は、3月28日に行われました。その昔、災いの象徴であった猿鬼を退治したことを祝って行われるようになったこの祭りは、400年以上の伝統があります。神事のあと、的に描かれた大きな鬼の絵を境内に立て、氏子らが矢を次々と放って鬼を退治しました。

このあと神社の中に戻り「花祭り」が行われました。この祭りは、桃の枝を両手に持ち踊りを即興で踊るもので、ユーモラスな踊りに神社の中は笑い声で包まれました。最後に赤・白・緑の菱餅がまかれ、今年の五穀豊穡と無病息災を祈願しました。

「気をつけてくださいね」と言葉をかけながらお守り100個を配布



春の全国交通安全運動街頭キャンペーン
交通安全の願いを込めた団子

春の全国交通安全運動が4月6日から15日まで実施されました。4月9日には、道行くドライバーにシートベルトの着用や早めのライト点灯を呼びかけようと、松波地区で街頭キャンペーンが行われました。この運動には内浦レディ・ドライバーズクラブの会員や能登警察署員ら25人が参加しました。

会員らは交通安全の願いを込めた手作りの涅槃団子のお守りやパンフレットを手渡ししながら、安全運転への意識を高めてくださいと声をかけていました。自分自身の運転テクニックに過信することなく、常に安心・安全なドライブを心がけましょう。

スポーツ少年団結団式
体力テストで自分の力を知ろう

町スポーツ少年団としての結束や、今年1年の活動に対する目標を誓う結団式が4月20日、内浦体育館を会場に行われ団員や指導者、保護者など300人が参加しました。式では小木クラブの石崎蓮さん、宇出津ミニバスの得田崇博さん、柳田剣道の赤田和央さんの3人が代表して誓いの言葉を述べました。

このあと団員らは体力テストに挑戦しました。このテストは運動能力のバランスや、自分に不足している部分を見つけて今後の活動に活かしてもらおうと昨年度から実施されているものです。団員は自分の体力の限界まで真剣に取り組んでいました。



団員を代表して誓いの言葉を宣言する3人

宇出津曳山祭り
春の訪れを告げる木遣り唄

▶交差点では、巨大な曳山が「角回しの木遣り」に合わせて見事に回ります

▼「てこ」を使って曳山の向きを微調整しながら進みます



4月の第3土・日曜日に行われる宇出津地区の春祭り「曳山祭り」。今年は4月19・20日に行われ、白山・酒垂の2基の曳山が独特の「木遣り唄」に合わせて宇出津の町を練り回りました。

曳山祭りは、能登半島一円に伝わる春祭りです。約480年前、畠山七尾城主が五穀豊穡を祈願して神事を執り行った際の出しものといわれています。宇出津の曳山は高さ6尺、幅8尺、車輪の大きさが1尺で、中央には数カ月かけて制作された人形が飾られます。宵山・朝山・本山の3回にわたり運行される曳山祭りを盛り上げようと、19日午後5時からは旧宇出津駅前で弥栄太鼓、20日午後5時からは大棚木獅子舞が披露されました。

真脇遺跡復元クリ木伐採実験
縄文人と同じ道具で同じ汗を

現在、復元作業が行われている国指定史跡「真脇遺跡」。この復元に使うクリの木を、縄文時代のおの「磨製石斧」で伐採する試みが3月23日に狙倉の山林で行われました。

伐採は、縄文人と同じ行動を取ることで遺跡により親しんでもらおうと真脇遺跡縄文館が企画したもので、首都大学東京の山田昌久教授(考古学)の指導で行われました。参加者20人は、直径約40センチ、高さ12尺のクリの木に交代で石斧を打ち込み汗を流しました。5400回余りで倒れたこのクリの木は、「板敷き土壇墓」の回りに立てられる木柱の再現に使われる予定です。



作業開始から4時間後、クリの木は音を立てて倒れました

申請から1年を費やした商標登録証を手にする洲崎会長



伝承娯楽「ごいた」が商標登録
地域の宝物「ごいた」が商標登録

町指定文化財にも指定されている宇出津発祥の伝承娯楽「ごいた」が、このほど商標登録されました。ごいた保存会会長の洲崎一男さん(藤波)は「4月27日に東京浅草で開催される『ゲームマーケット2008』というゲームのイベントにも出品するなど『ごいた』は地域発祥の娯楽として注目を集めています。今回の商標登録は、今後『ごいた』を広く使ってもらうためのものです」と話し、「文化財、商標と世間に『ごいた』を認めてもらいました。これからは地元の子どもたちへの普及と交流人口の拡大に少しでも貢献したい」と抱負を語ってくれました。